

(様式1) 実施報告書-プログラムB

1 補助事業者情報

団体名	宮崎県
-----	-----

2 事業の概要

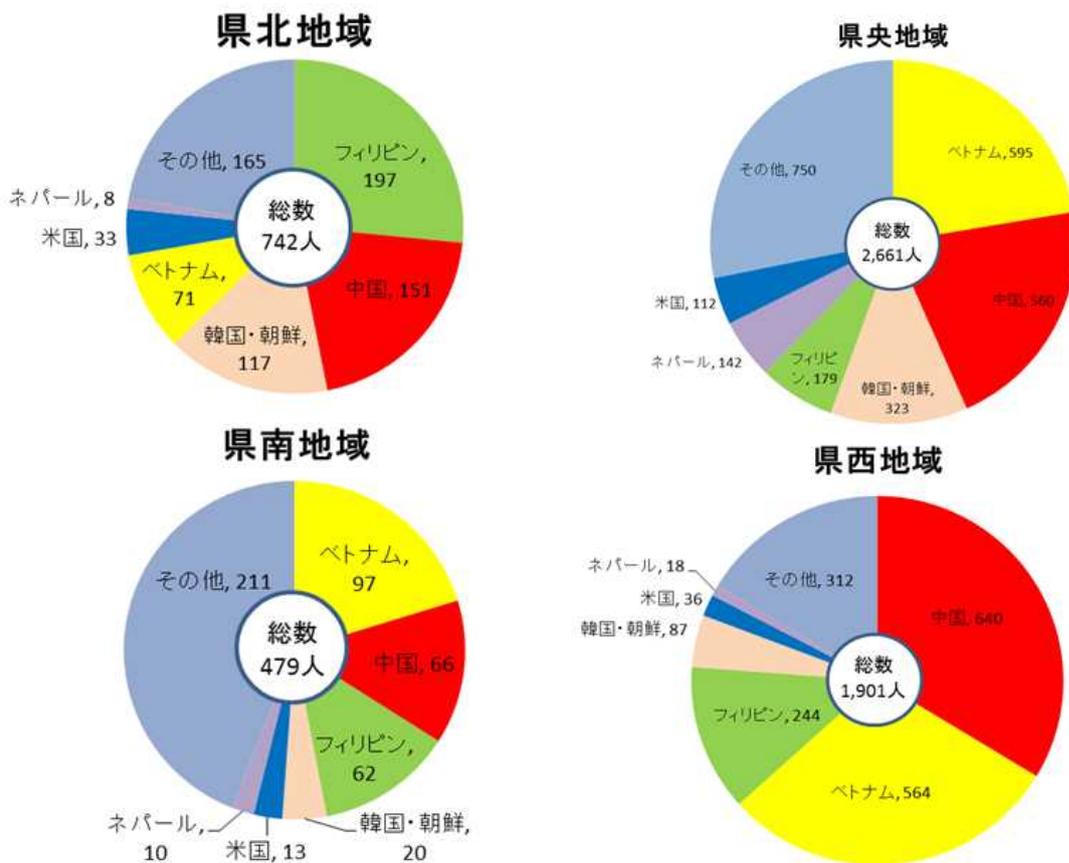
1. 事業の名称	宮崎県における地域日本語教育体制整備事業
2. 事業の期間	令和元年6月26日～令和2年2月28日
3. 事業実施前の現状と課題	<p>全国において本格的な少子高齢化、人口減少社会が到来する中、本県では進学・就職時に多くの若者が県外に転出する社会減や、全国より早く進む高齢化の影響が重なり、本県経済の活性化、産業振興を担う人材の不足が深刻な課題となっており、多様な人材を確保する観点から、本県では外国人材や在留外国人が安心して働き、暮らしていくための環境整備に積極的に取り組んでいくこととしている。</p> <p>平成29年12月現在の本県における外国人数は5,783人で、過去5年間で1,658人(40.2%)増加しており、その内訳は技能実習生(1,081人増)や留学生(401人増)となっている。また、本県の在留外国人に占める外国人労働者の割合は約7割で、全国平均(約55%)と比べて高くなっている。国による新しい在留資格「特定技能1号・2号」の創設により、今後、在留外国人の更なる急増が見込まれており、外国人材を円滑に受け入れていくために、日本語能力が十分でない外国人が生活等に必要な日本語能力を身に付けられるよう、県、市町村、関係機関等の連携により日本語教育環境を強化するための総合的な体制づくりを推進し、「生活者としての外国人」の日本語学習機会の確保を図る必要がある。</p> <p>現在、本県における日本語教室は、宮崎市内におけるセンター校方式での日本語講座(平日昼間、年間3講座)のほか、宮崎市ほかでのボランティアを活用したマンツーマン方式による日本語れんしゅう会(年間50回程度)のみであり、市町村等から日本語教室の地域開催の強い要望を受けている。</p> <p>本県における外国人住民の国籍や職業等については、地域ごとに以下のような特色があるが、日本語教育に関する総合調整会議の設置や地域別意見交換会の開催を通じて、地域や外国人の実態・特性、日本語教育に関するニーズ(夜間・土日開催、レベル、学習方式等)を把握し、今後5年間で総合的な体制づくりを講じる。</p> <p>① 県北地域</p> <p>フィリピン人や中国人、韓国人が多い。住民数は比較的少ないが、山間部など遠隔地の居住者に対しては、オンライン講座などの対応が考えられる。</p> <p>② 県央地域</p> <p>ベトナム人や中国人が多い。県央の北部地域では、農業や食料品製造業などの技能実習生が多いため、実情に応じた日本語教室の開催を実施する必要がある。</p>

③ 県南地域

その他が一番多く、漁業など技能実習生であるインドネシア人が多い。漁業従事者向けなどの日本語教室の開催が考えられる。

④ 県西地域

中国人やベトナム人が多い。農業や食料品製造業などの技能実習生が多いため、実情に応じた日本語教室の開催を実施する必要がある。



4. 目的

本格的な少子高齢化、人口減少等を背景に、本県における外国人数は技能実習生や留学生を中心に増加しており、地域産業の持続的な発展を図る上で、貴重な人材となっている。また、国による新たな在留資格の創設により、今後更なる外国人住民の増加が見込まれることから、外国人材の円滑な受入れ・共生を図るため、外国人住民が生活等に必要とする日本語能力を身に付けられるよう地域における日本語教育を推進する必要がある。

本県における日本語教育は、宮崎市内でのセンター校方式による日本語講座（平日昼間、年間3講座）のほか、宮崎市ほかでのボランティアを活用したマンツーマン方式による日本語れんしゅう会（年間50回程度）にとどまることから、県内全域の外国人住民を対象に日本語教育の機会を広げる必要がある。

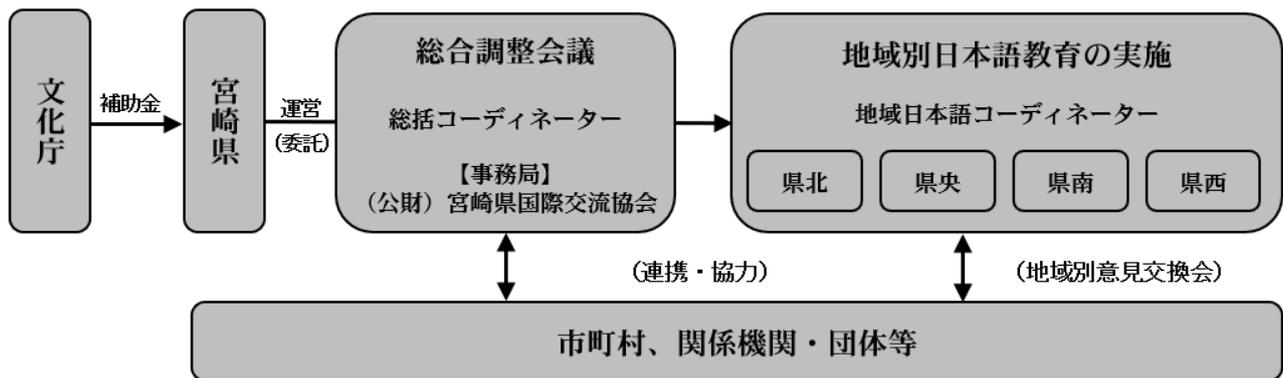
本事業では、県内の日本語教育の関係者や外部有識者で構成する総合調整会議を設置し、地域や外国人の実態・特性を踏まえた日本語教育の推進に向けた協議を行い、総括コーディネーターが日本語教育プログラムの策定・教室運営等の事業を総括する。また、県内4地域に配置するコーディネーターが、地域や外国人の実態や特性を把握し、ニーズ（夜間・土日開催、レベル、学習方式）に応じた日本語教育プログラムの企画・調整を行うこと等の取組により、本県における日本語教育に関する総合的な体制づくりを行うことを目的とする。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制（図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。）

宮崎県では、日本語教育事業を宮崎県（オールみやざき営業課）が（公財）宮崎県国際交流協会に委託して行っているため、事務局は県国際交流協会内に設置し、事業の進め方は総合調整会議での審議を経て進めた。

地域日本語教育の実施については、県国際交流協会が継続して実施するほか、県内で日本語教育の運営実績がある宮崎大学と日本語教育機関と連携し、各地域のリソースを活用しながら日本語教室を実施した。



《事業の中核メンバー》

	交渉状況	氏名	所属	職名	役割
1	承諾済	伊藤 健一	宮崎大学国際連携センター	准教授	企画・立案
2	承諾済	高柳 香代	多文化共生ネット・九州 文化庁地域日本語 教育アドバイザー	主宰	企画・立案 コーディネーター育成
3	承諾済	山中 鉄斎	宮崎情報ビジネス医 療専門学校国際事業 部	部長	企画・立案
4	承諾済	大庭 みづほ	—	日本語教師	講座の実施等
5	承諾済	日高 光子	宮崎公立大学	日本語教師	講座の実施等
6	承諾済	田中 利砂子	南九州短期大学	日本語教師	講座の実施等

(2) 域内の市区町村，関連団体等との連携・協力体制

総合調整会議、地域別意見交換会を通じて、宮崎県における地域日本語教育体制整備事業に参画いただき、日本語教室の開催について地域の理解と協力を得ながら、ニーズに応じた日本語教室を実施した。

4 2019年度の事業概要

1. 2019年度の実施目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・総合調整会議の設置、地域別意見交換会の開催、総括コーディネーターの配置、地域日本語教育コーディネーターの配置、地域日本語教育の実施等を行う。 ・事務局、コーディネーター、有識者で先進地視察を行い、調査結果を総合調整会議へ報告するとともに、本事業の体制づくりの参考とする。 ・県国際交流協会において、地域日本語教室、日本語れんしゅう会、スピーチコンテスト、オンライン学習を行う。 ・日本語教育機関において、これまで日本語教育の空白地であった地域において日本語教室を実施する。 ・宮崎大学と連携して、日本語学習支援者の育成・確保を図る。 			
2. 実施内容			
(取組1) 総合調整会議の設置			
①構成員			
	氏名	所属	職名
1	高山 智弘	県オールみやざき営業課	課長
2	各担当課長	各市町村	課長
3	伊藤 健一	宮崎大学国際連携センター	准教授
4	高柳 香代	多文化共生ネット・九州 文化庁地域日本語教育アドバイザー	主宰
5	山中 鉄斎	宮崎情報ビジネス医療専門学校国際事業部	部長
6	大庭 みづほ		日本語教師
7	日高 光子	宮崎公立大学	日本語教師
8	田中 利砂子	南九州短期大学	日本語教師
9			
10			
11			
12			
13			
14			

②実施結果			
実施回数	2回		
実施スケジュール	<p>①事業推進会議</p> <p>日 時 令和元年11月15日(金) 15:00~16:30</p> <p>場 所 カリーノ宮崎地下1階</p> <p>出席者 13名</p> <p>②令和元年度第1回総合調整会議</p> <p>日 時 令和2年2月14日(金) 13:30~17:00</p> <p>場 所 カリーノ宮崎地下1階</p> <p>出席者 32名</p>		
主な検討項目	<p>①事業推進会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合調整会議の実施に先立ち中核メンバーによる準備会議を開催 ・事業の実施状況、宮崎県地域日本語教育実態調査(市町村向け)の回答状況 ・今後の事業推進について、意見交換 <p>②第1回会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮崎県における地域日本語教育体制整備事業の説明 ・各地域における日本語講座の実施状況の報告 ・次年度の実施計画について、意見交換 ・ワークショップ「宮崎県における外国人流入への対応を考える」 		
(取組2) 総括コーディネーターの配置			
・県国際交流協会日本語教育を担当している職員の中から1名を専従職員として任命し、総括コーディネーターとして配置した。			
(取組3) 地域日本語教育コーディネーターの配置			
・県内4地域(県北・県央・県南・県西)を担当するコーディネーターを配置し、地域や外国人の実態・特性を把握し、ニーズに応じた日本語教育プログラムの企画・調整を行った。			
(取組4) 地域日本語教育の実施			
実施箇所数	8箇所	受講者数	423人
活動1	<p>【名称】外国人のための日本語講座 初級1</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】25回(1回2時間)</p> <p>【受講者数】延べ43人</p> <p>【実施場所】宮崎市カリーノ宮崎地下1階</p> <p>【受講者募集方法】募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p>		

	<p>【内容】「いっぽにほんごさんぽ初級1」</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動2	<p>【名称】外国人のための日本語講座 初級2</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】25回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】延べ131人</p> <p>【実施場所】宮崎市カーノー宮崎地下1階</p> <p>【受講者募集方法】募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】「いっぽにほんごさんぽ初級2」</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動3	<p>【名称】外国人のための日本語講座 初級1</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】25回（1回90分）</p> <p>【受講者数】延べ121人</p> <p>【実施場所】宮崎大学国際連携センター</p> <p>【受講者募集方法】募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】「いっぽにほんごさんぽ初級1」</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動4	<p>【名称】外国人のための日本語講座 初級1 ※夜間講座</p> <p>【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。</p> <p>【実施回数】20回（1回90分）</p> <p>【受講者数】延べ63人</p> <p>【実施場所】宮崎総合学院</p> <p>【受講者募集方法】募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】「いっぽにほんごさんぽ初級1」</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動5	<p>【名称】にほんご教室 in 川南&ボードゲーム交流会</p> <p>【目標】地域で生活する外国人住民に対して、学んでおくべき生活知識とともに、それに関連した日本語能力を習得してもらう。</p> <p>【実施回数】1回（1回2時間）</p>

	<p>【受講者数】 11人</p> <p>【実施場所】 川南町生涯学習センター</p> <p>【受講者募集方法】 募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】 ①自己紹介、②避難所の確認、③災害時に使う日本語、④病院で使う日本語、⑤地域住民とボードゲームを通じた日常会話及び語彙の習得、⑥eラーニング教材の紹介</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動6	<p>【名称】 にほんご教室 in 日南</p> <p>【目標】 地域で生活する外国人住民に対して、学んでおくべき生活知識とともに、それに関連した日本語能力を習得してもらう。</p> <p>【実施回数】 1回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】 13人</p> <p>【実施場所】 日南市創客創人センター</p> <p>【受講者募集方法】 募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】 ①アイスブレイク、②自己紹介、③やさしい日本語を使った日南の生活に関するグループ意見交換、④eラーニング教材の紹介</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動7	<p>【名称】 にほんご教室 in 三股</p> <p>【目標】 地域で生活する外国人住民に対して、学んでおくべき生活知識とともに、それに関連した日本語能力を習得してもらう。</p> <p>【実施回数】 1回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】 9人</p> <p>【実施場所】 三股町中央公民館</p> <p>【受講者募集方法】 募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】 ①自己紹介、②カードゲーム、③町の紹介、④災害の時に使う日本語、⑤eラーニング教材の紹介</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>
活動8	<p>【名称】 延岡市にほんご教室</p> <p>【目標】 地域で生活する外国人住民に対して、学んでおくべき生活知識とともに、それに関連した日本語能力を習得してもらう。</p> <p>【実施回数】 1回（1回2時間）</p> <p>【受講者数】 32人</p> <p>【実施場所】 延岡市中小企業振興センター</p> <p>【受講者募集方法】 募集チラシの配布や広報誌、HP等で周知</p> <p>【内容】 ①多言語アクティビティ（歌・ダンス）、②ゴミの出し方、③意見交換、④eラーニング教材の紹介</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：あり</p>

その他の取組

(取組5) 地域別意見交換会の開催

地域における外国人の実態・特性や日本語教育のニーズの把握や当事業への市町村からの要望等の聞き取り、今後の当事業実施への理解・協力の要請等を目的に、県内4地域で意見交換会を実施した。出席者は市町村担当者、有識者（県央、県南のみ）、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター（地域ごとにそれぞれの担当者）、宮崎県国際交流協会。実施状況は次のとおり。

県央：令和2年2月18日（火）14:00～15:30

宮崎市 カリーノ宮崎地下1階

出席者17名

県南：令和2年2月21日（金）13:30～15:00

日南市 小村記念館

出席者8名

県北：令和2年2月10日（月）11:30～13:00

延岡市 延岡市中小企業振興センター

出席者9名

県西：令和2年2月17日（月）13:30～15:00

都城市 未来創造ステーション

出席者10名

(取組6) 県内における日本語教育の実施状況の視察

今後の日本語教育体制づくりの参考とするため、有識者、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、宮崎県国際交流協会職員で、県内において実施されている日本語教育の現場を視察した。

日 程：令和2年1月31日（金）

視察先：都城国際交流協会主催「日本語れんしゅう会」

宮崎市国際交流協会主催「みんなで日本語会」

※地域日本語教育コーディネーターの配置に時間を要したため、今年度は先進地視察を取りやめ、県内の日本語教育の現地視察に切り替えた。

(取組7) 日本語学習支援者の育成

本県に在住する日本語学習支援を行う人材の育成とスキルアップを図るため、講座を県内2地域で、講演会を県内1か所において実施。

○日本語学習支援者養成講座

宮崎市

日 程：令和元年11月2日（土）～1月18日（土）13:30～16:05

場 所：宮崎市 カリーノ宮崎地下1階

参加者：延べ216名

延岡市

日 程：令和元 1 2 月 1 日（日）～ 1 2 月 2 2 日（日）13:30～16:05

場 所：延岡市 延岡市中小企業振興センター

参加者：延べ 4 0 名

○日本語学習支援者向け講演会

日 程：令和元年 1 1 月 1 7 日（日）14:00～16:00

場 所：宮崎市 宮崎県企業局県電ホール

講 師：北御門織絵氏（多文化社会コーディネーター）

参加者：2 4 名

（取組 8）日本語スピーチコンテストの開催

県内で生活する外国人（留学を含む。）が日本語学習の成果を確認するとともに、それを聞く全ての人たちに新たな視点を与え、違いを知る好機として相互理解を図ることを目的に、日本語のスピーチコンテストを開催した。

令和元年 1 1 月 3 0 日（土）、カリーノ宮崎地下 1 階にて実施。発表者は 1 4 名。

（取組 9）日本語れんしゅう会の開催

県内で生活する外国人を対象とし、日本語ボランティアが各参加者（外国人住民）の日本語のレベルや希望する学習内容に応じ、マンツーマン方式での日本語の指導を行う。

宮崎市 カリーノ宮崎地下 1 階にて毎週水・金（10:30～11:30）実施。

外国人参加者延べ 4 2 3 名

（取組 1 0）オンライン学習の周知・啓発

本事業による日本語教室等以外でも外国人住民が自ら学習できるよう、国際交流基金が提供する無償のオンライン教材について、協会ホームページや日本語教室におけるチラシの配布・説明等により周知・啓発を行った。

（取組 1 1）宮崎県地域日本語教育実態調査（市町村向け）

事業の開始にあたって、県内の外国人住民の状況や日本語教育に関する実態を調査するため、市町村向けにアンケート調査を実施した。

（取組 1 2）日本語教育シンポジウム

地域における日本語教育に関する意識啓発等のシンポジウムを宮崎大学との共催（宮崎大学主催）で開催した。

日 程：令和 2 年 2 月 1 5 日（土）13:00～16:00

場 所：宮崎市 カリーノ宮崎地下1階

参加者：85名

3. 成果と課題

地域日本語教育コーディネーターの配置に時間を要したことから、事業の進捗に大幅な遅れが生じ、当初実施計画の一部が未達となったが、市町村を対象としたアンケート調査と、地域日本語教育コーディネーターによるヒアリング、総合調整会議及び地域別意見交換会の開催を経て、県内における日本語教育の実施体制のベースを構築することができた。

これまで宮崎市で実施していた日本語学習支援者育成講座について、今年度は延岡市でも開催したが、講座修了後に、受講者と地域の外国人労働者及び企業担当者など約60名（外国人32名、日本人28名）の参加をいただき、日本語教室を開催した。参加者からは、次回開催を望む声が聞かれるなど手応えを得ることができた。

今後、日本語教育を全県に展開していくには、日本語学習支援者を育成するとともに、地域の企業・団体の理解をいただきながら連携して取り組んでいく必要があり、総合調整会議、地域別意見交換会、地域日本語教育コーディネーターの活動を通じて、地域日本語教育体制整備の充実を図る必要がある。

4. 今後の展望

1年目には、総括コーディネーター及び地域日本語コーディネーターの配置により事業を開始し、これまで実施してきた日本語講座と日本語学習支援者育成の取組を拡充するとともに、総合調整会議及び地域別意見交換会や市町村への実態調査・ヒアリング等を行い、県内4地域における日本語教室の実施に向けた準備と試行的な取組として県内4地域で各1回にほんご教室を開催した。2年目には、市町村をはじめ地域の企業、関係団体等の協力を得て、これまで日本語教育の空白地であった県内4地域で日本語教室を実施する。3年目には、日本語教室の実施に関するノウハウの集積を行う。4年目には、日本語教室の運営に意欲のある市町村で日本語教室を実施し、開催のノウハウを共有する。5年目には、地域における日本語教室の立ち上げ支援と、5年間の取組の振り返りと今後の方針を検討する。